

いかに育成していくのかということが発言されており、事業所としてのサービス向上、支援者のスキルアップ、人材育成はもとより、地域の中の一資源として、事業所づくりがいかに大切かを感じることができました。

障害者自立支援法の施行後、事業者と利用者との関係において、福祉を取り巻く環境も大きく変化し、肌で感じるというよりも、「痛感する」に近い感覚を持っております。

「福祉事業と福祉サービス、一体どこに違いがあるのか、単にサービスという言葉の持つ意味が、経営という部分を大きくクローズアップしてしまい、自分自身が振り回されてしまっているのではないだろうか」、「経営基盤の安定とは、経営の安定ではなく利用者の方々がいかにして安心・満足する生活を送るための支援ができるのかということが大切なことであり、その結果安定した事業運営につながる」ことをあらためて気づかせていただく研修となりました。

二日間という短い間でしたが、研修だけでなく、北の大地をしっかりと堪能させていただき、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。



全国障害者スポーツ大会が開催されました

福島育成園 大谷 慶子
ぼると 平松 朝径

11月1日(土)から3日(祝)まで第14回全国障害者スポーツ大会「長崎がんばらんば大会2014」が行われ、泉原が副監督、平松がボウリングのコーチ、大谷が陸上競技のコーチとして参加しました。

今大会の大阪市選手団は、大会役員が23名、個人競技(陸上競技・水泳・アーチェリー・卓球・フライングディスク・ボウリング)42名、団体競技(聴覚女子バレーボール・知的男子バスケットボール)24名の総数89名でした。

選手団は10月31日に長崎県まで移動になります。

天候の悪くなると言われるなか、朝7時に新大阪駅に集合し、新幹線のぞみに乗車し、博多駅到着後、すぐに特急列車に乗り込み長崎県に向かいました。5時間半の電車での移動だけで疲れが出てしまいました。さらには、宿舎の到着後も休憩する間もなく公式練習となり、明日からの本番にそなえて軽く体をならすことになりました。選手・役員共々、ホテルに戻ると夕食・入浴となり、皆さんほぼすぐに就寝したようです。

いよいよ大会初日です。雨が降る中、開会式のリハーサルを行いました。ボウリングチームは入場行進に女性選手が参加しました。開会式では天気も少し回復し、地元の特別支援学校を含む小学生から高校生がダンスなどを披露してくれました。

開会式後からは早速競技が開始です。ボウリング競技では大阪市の選手に重度の方がおられ、環境の変化から睡眠も充分でなく、慣れないメンバーとの競技、さらには、普段経験のないアメリカンスタイルの早い展開に興奮して不穏な状態になってしまいましたが、他の競技者から投球フォームや順番などフォローの声かけをする姿もあり、共に協力しあう場面も見られました。

一方、陸上競技では、ソフトボール投げで2位受賞者が続出し、1500mでは自己ベストを出す選手もおり、1位になる選手もいました。1500mの部で走る前には雨がやみましたが、途中で降り始め、足が冷えて走りづらかったようでした。

大会2日目は、晴れたり強風がふいたりと一日荒れ放題のお天気でした。陸上競技の方では、強風の影響か、800mでは1位の選手もいましたが、タイムがのびなかったと言われていました。選手のなかにはメダルを取れずに悔しくて凄く落ち込んでいたり、初出場で、自己ベストが出て自信がついたりした方もいました。

一方のボウリング競技では、選手の中には手首を痛めた方もいましたが、最後まで投げ続けていました。また、自己ベストとして4ゲームの合計点で837点の高得点を更新された方もおり、お父さんも応援に駆け付けておられ、最高の瞬間を親子で分かち合っていました。

大会3日目の最終日は、お天気はよかったです、少し気温は低かったです。競技としては陸上のみであったので、ボウリングの選手団は会場でゆっくりお土産を購入していました。これまでに何度となく全国大会で試合を重ねた相手とゆっくり話しをする時間もでき、お互いをたたえ合っていました。その陸上競技の